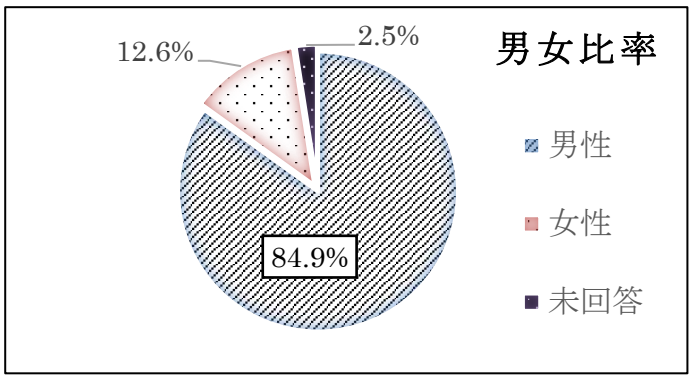
本研修に関する受講者アンケート結果

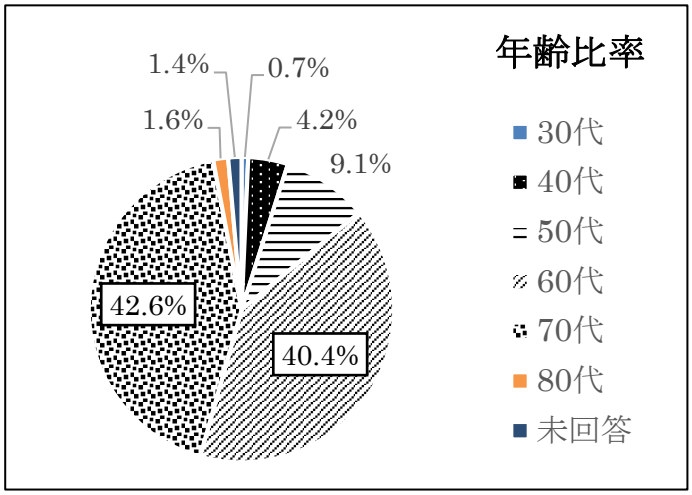
1．性別

性別	合計	男女比率
男性	484	84. 9%
女性	72	12. 6%
答えたくない	0	0. 0%
未回答	14	2. 5%
合計	570	



2．年齢

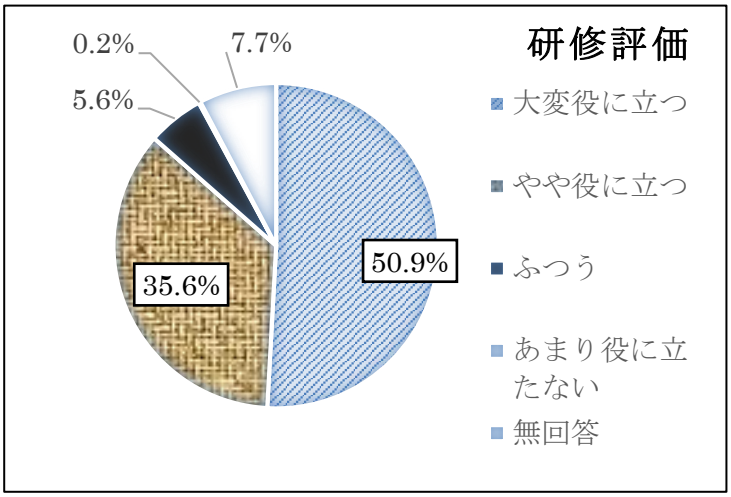
年齢	合計	年齢比率
30 代	4	0. 7%
40 代	24	4. 2%
50 代	52	9. 1%
60 代	230	40. 4%
70 代	243	42. 6%
80 代	9	1. 6%
未回答	8	1. 4%
合計	570	



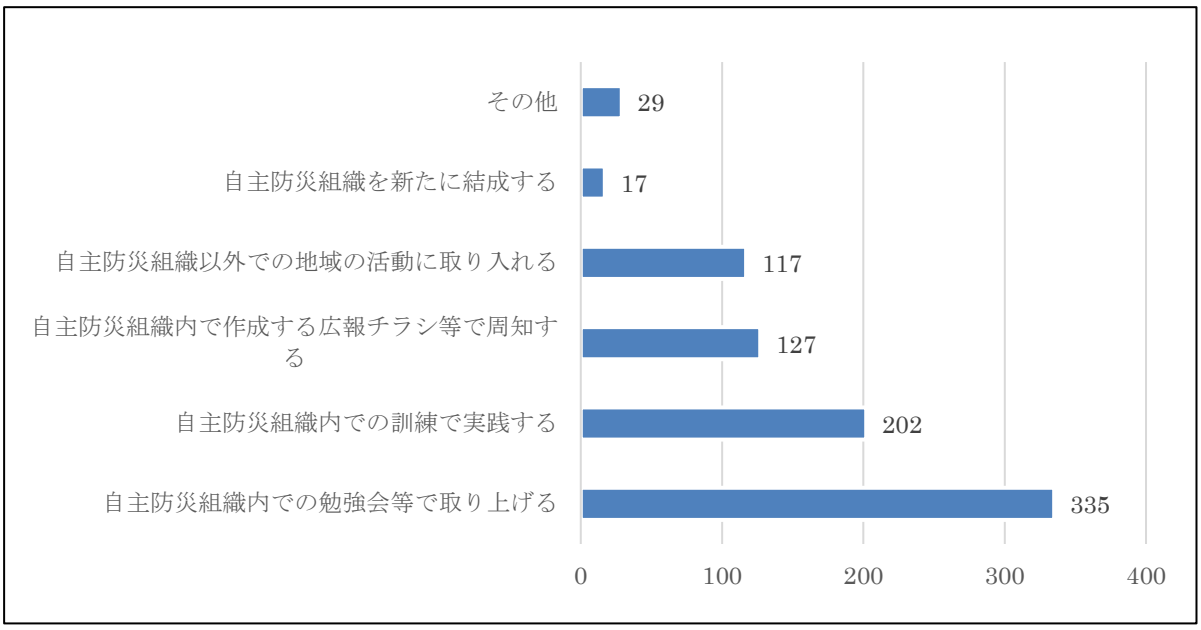
3．研修内容

(1)今後の活動に役立つと思うか

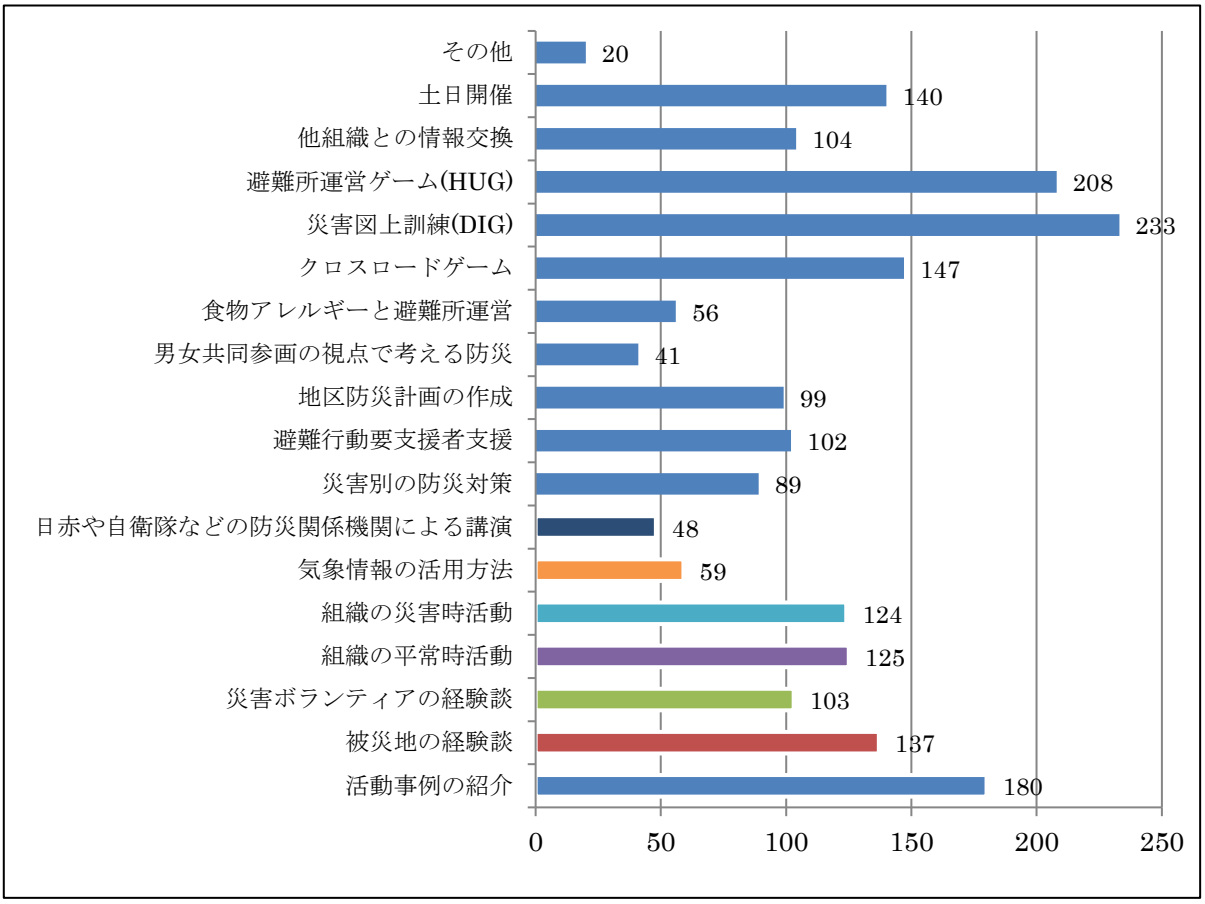
研修評価	合計	比率
大変役に立つ	290	50. 9%
やや役に立つ	203	35. 6%
ふつう	32	5. 6%
あまり役に立たない	1	0. 2%
無回答	44	7. 7%
合計	570	



(2)学んだ内容をどのように活かすか（複数回答、回答者数 507 人）

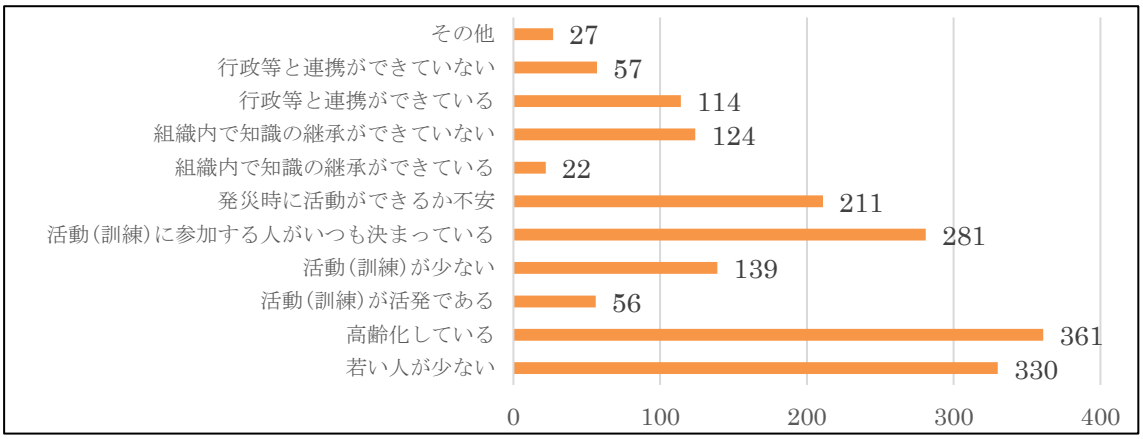


(３)今後希望する内容（複数回答、回答者数 438 人）

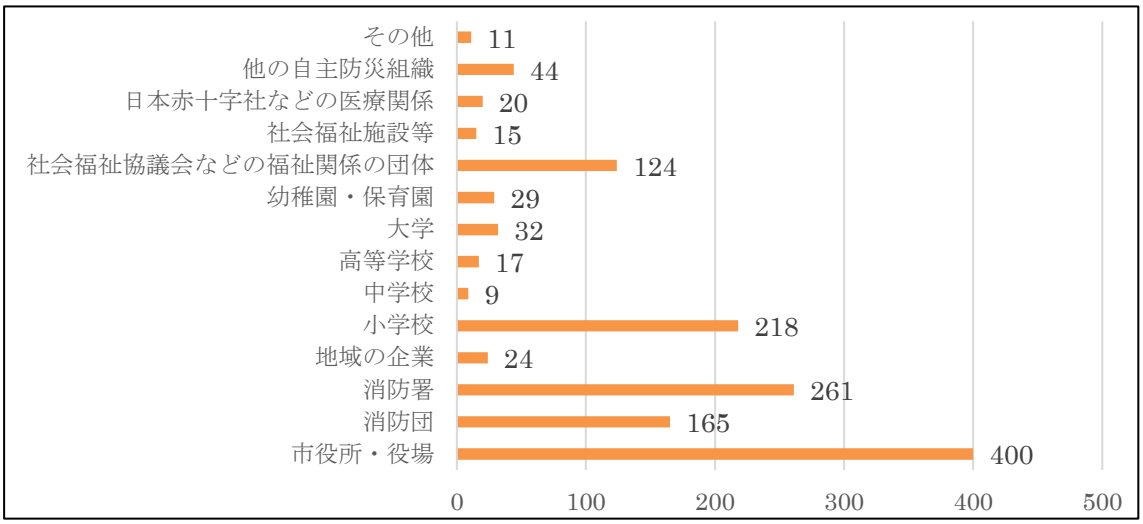


４．自主防災組織について

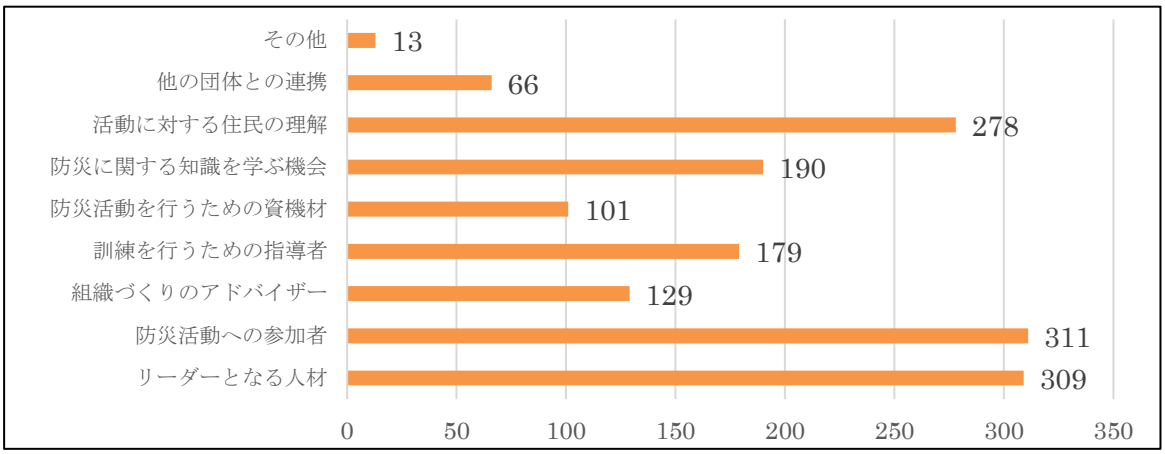
(1)所属する組織について日頃感じること（複数回答、回答者数 537 人）



(2)防災活動での他機関との連携状況（複数回答、回答者数 543）



(3)組織を活性化していくうえで必要と思うもの（複数回答、回答者数 521 人）



５．その他自由記載（主な意見）

（１）研修について良かった点や改善点

＜研修時間・会場に関して＞

・時間が少し長く感じた。丸一日の研修は時間が長く集中力が続かない。休憩時間 5 分から 10 分に増やす。

・半日程度の研修にしてほしい。時間が長く詰め込みすぎで集中力が持たない。

＜講義に関して＞

・個人情報の取り扱いで難しい面があるが、DIG を活用して高齢者、避難訓練者への対応を一歩一歩進めたいと思う。

・個別プラン作成のあり方を示してもらったことはありがたい。

・これから独居老人が増えると思うがその人達の災害時の安否確認や避難の方法が知りたい。

・要配慮者の具体的状況を想定しての検討等、今後必要だと思った。

・気象情報でスマホの使い方を実践でやってみたかった。

・広島県の災害を例に具体的な説明があり実情が良くわかった。被災地での救助映像はショッキングだったが、一番の防犯活動になると思った。

・倉敷市真備町の体験での避難所の話は具体的な例が多く今後の参考となった。質問できなかった点が残念。

・実際の避難所での活動事例がこれからの対策に役に立つ。避難所運営マニュアル作成にあたり参考になる。

・香和自治会の洪水マップの取組み、なかなかできない事と思う。

・地元の訓練を行うにあたり参考になる内容が多くあり、今後の訓練に活用できるものはおおいに活用したい。

・新東三国地域の地区防災計画～実行すばらしい。ただ個人的な情熱をどのように理解、共有、拡大し人材を育むかが最大の課題。

・避難所運営まで踏み込んだのはよかった。現役の父親・母親世代に聞いて欲しい。

・女性や子どもの視点が重要であることを再認識、要配慮者への細やかな対応の認識。

・アレルギーの子ども達に配慮するという視点が抜けていたので目からウロコ。今後取り入れるために周囲にどれだけニーズがあるのかから始めたい。

・食物アレルギーについての学びができて良かった。非常食を提供しているが、その際にアレルギーを持っている人にも安心して提供できる食物をお渡ししたいと思う。

・食物アレルギーについて今まで行政から説明もなく、大変有意義だった。

（その他）

・防災士制度、地域の位置付け、行政と社協との連携について具体的に説明してほしい。

・公の考察は素晴らしいが一方的な考えが多く、縦横の情報交換が可能な提案が欲しい（現場感覚）。

・地区防災計画と災害ボランティア、被災地の活動事例をドッキングして具体的に詳細な事例の説明や問題点その解決策を教えていただければと思った。

・年齢層の違いにより、理解度が違ってくる。考え方の違いがわかる。

・個人情報の立場から町会で一人暮らしや支援者の情報が把握出来ない。（防災活動不可と実際には矛盾のある現実）

・自治会（町会）内での要支援者の有無、重度、家族構成等の把握が難しい。

・他地域の方々と話しあえたことが良かった。

・自主防災組織で成功している事例等の紹介があれば参考になると思う。

・普段あまり気にしていない防災なので、大変役立つことを教えていただいたり、グループワークで話したりと有意義な時間だった。理解するには１日では無理。今後、資料等もう一度読み返してみる。
・よく理解ができたと言えないが、住民に伝えるには講師の方に来て欲しい。
・内容が現実に即している。大変リアリティのある研修で、得るもの、考えさせられることが多かった。再度資料を読み、地域に何が持ち帰れるか検討してみたい。
・行政だけにたよらず自助から共助、やはり一人ひとりが助け合う。
・今回行った内容などインターネットなどであげてほしい。（ほかの方の意見や内容など知りたい。）
・各自主防災会での訓練方法や問題点などが知りたい。
・資料をカラーにしてほしい（見えない、フィートバックする際に再利用したい）。
・身近な成功事例など共有してほしい。
・資料も揃っていて聴講に集中できて大変良かったです。できれば避難所受付簿のサンプルが欲しかった。
・知らなかったことを知れた。WS 型の研修がもう少しあったらと思った。
・全防災リーダー、町会町、女性部をいれて区単位で開催して欲しい。

（２）組織のリーダーや若手の人材をふやすためにどのような取り組みが必要か

・自治会運動による啓蒙活動。自治会誌の配布。
・リーダーや若手の人材育成をするには何回も訓練する必要がある。持ち帰って同僚や若手に理解をもらって訓練する。
・指導して頂く人材の育成が必要だと思う。
・避難場所の注意点や留意点を学び、いざの時に役立てるよう皆でしっかりと作り上げたい。
・日々の活動の中で防災に対する意識を向上させる為にもっと機会を増やしてほしい。
・普段から色んな人とコミュニケーションをとり合っていく。
・住民の興味を引く防災訓練や講演会の開催で、出来るだけ多くの参加者が来る様な取組みや企画を立て、積極的に勧誘の努力をする。
・学校や地域を巻き込んだ防災訓練など、子供たちと一緒に出来る訓練があれば良いのでは。
・地域の活性化が先決。現在ある様々な協議会を有効活用し若手との交流をもつことが大切。
・自治会活動の重要性及び自主防災組織の重要性を PR し、リーダーとしてできそうな人を育成していく。
・高齢者では無理。若くてやる気のあるリーダー育成。行政の積極的な協力、支援が絶対必要。
・まずは地域住民を含めた防災への意識づけ・向上が大事。
・当町会では警察に協力もしてもらい、夜間の迷惑駐車の取り締まりをしている。普段の生活で役に立つ活動を PR し理解（自主防災活動）してもらう。
・家族で参加～リーダーになってもらう。家族で参加ないので困る。休日での参加はじゃまくさいという人も。
・小さい時から学校で防災について教育する。親子で参加できる防災イベントをする。
・小学校・中学校・高等学校での（自治体・会社でも）防災教育の実施が必要。
・パンフレットを配付し、具体的にどんなことをやってるか、パンフレットに記載しポストにいれるなりする。
・ボランティア活動を通じて考えや行動を積極的になる人が多くいるので、若手ボランティアの育成が大切。
・防災活動に自治会育成会女性部防犯等との協力が出来るように、活動の参加を進めていく。
・もっと中学生、高校生、大学生の活動を広めるように取り組む必要がある。

・仕事が終わってからそのまま会議（自主防災の会議が月 1 回）にいくと、帰宅が 21 時過ぎになる。もっと若い人に参加してもらえるよう日時などの配慮が必要。（休日、夜間などに実施）
・日常の継続的な活動をし、それを丁寧に広報し、参加を呼び掛ける。
・定期的に研修会を実施し、研修内容によって年齢区分を設ける。資格制度とし、知識の向上と全体のレベルアップを図る。
・幼・小・中のＰＴＡ活動から自治会⇒校区・地区への自然な流れが望ましい。
・若いファミリー（子育て世代）への働きかけ。若年者が興味をもつ仕掛け。
・防災士等講演会。防災士の養成に補助する。リーダーが防災士のライセンスを取得する。数人必要。
・町内会と一体化して地域のレベルアップ。
・スマホゲームにする。SNS でのアピール。
・小・中・高・大の学校教育で十分に防災教育をすべきである。あまりにも一般人の認識が低く子供たちから危機感をもたせていくことが有効ではないか。
・町会の組織率を高める、若い人が参加できる仕組みづくり、地域コミュニティが崩壊してきている。
・体系的な教育の仕組み。（初級、中級、上級）
・受講者のフォロー、データベースと活動状況の把握。
・小学生の高学年、中学生、高校生の年間行事の中に数回の防災についての専門家を呼んで学校行事として位置付ける。
・自主防災組織間の交流（府レベル、地域レベル）年齢階層別の研修、自治会・管理組合間の交流。
・PTA、子供会の比較的組織的まとまっている若い力のある組織が中心となることが望ましい。
・今回のアレルギーの話など若い年齢の方の興味関心にかかわる学習会を開催して、地域防災に参加していく機会をつくる事。
・組織の人員の高齢化が進んでいるので各地域の中学校の運動部等の生徒ごとジュニアリーダーにして、その親も巻き込んで活動したら良いと思う。
・現状、地域で人材を増やすことは困難（高齢化等）。学校等の教育等でボランティア意識の高い人材育成等によるスペシャリティをもつ人材として派遣する。
・中学性を対象としたリーダー研修。放課後教室の中でのリーダー研修、地域学校仲間間の連携を取り入れた教育、地域に必要である中学生を育てる。
・小学生の土曜事業は年一回あるが、中学生も地域一体型の訓練を実施すべき。養護支援学校とのかかわり方をアドバイス願う。

（３）日々の活動の中で悩んでいること

・ベースである近所どうしの結びつき、支えあい弱い。
・自治会役員が中心である為、毎年改選され継続した活動ができない。現状では実際の場面では全く機能しない組織と不安。
・マンション住民 45%が自治会員、それ以外が非会員、連絡がとりにくい。マンションの為、災害に対する危機感が薄い。訓練にしても緊張感がない。
・昼に災害が起こった時に避難の援助が難しいので、中学、高校生の若い人の力を借りていけるよう、連携を深めて行く必要がある。

・避難要支援者の扱いについて個人情報の「壁」がネックになり運用がうまくできない。
・防災活動を具体的に行う場合のプライバシー保護の問題。
・若い人材だけでなく、高齢化がすすみ協力者が減ってきている。どのタイミングで避難させるか判断が難しい。
・地震や大型台風が来てもほとんど被害のない地域なので住民に防災意識が低い。
・発災時の地域内での役割分担や行動計画ができていない。
・老若男女『わが町』の意識を深めて行きたい。ともに助け合い、協力し合い気持ちづくり。
・資金不足。専門家のアドバイスがほしい。要支援者のリスト収集に苦労している。
・避難住民の人数に比べて避難場所が狭い。
・避難所開設（初期）時のアウトライン等があれば良い。非自治会員とのコミュニケーションが難しい。
・過去の災害（台風・大雨・がけ崩れ・地震など）でテレビで報道されるような経験がなく、実際にそのような状況になった際のイメージが現在の地域ではしにくい（同じ認識をもつものが少なすぎる）。
・住民に自らの問題であるという主体的意識がない。学校等教育機関も協力すべき。
・校区内の打ち合わせ会が少ない。交流の場をできるだけ増やす。
・自分自身、仕事と防災活動の両立はとてもつらい。特に行政と連携するために休暇が必須で自治会側が複数人で対応できないのはつらい。
・自治会員と非自治会員の対応の仕方、差別化できるか否か。クレーム対応他多数あり。
・安否確認し、人数の把握等でトランシーバーや携帯電話を利用しているが、トランシーバーがうまく連絡できないことがあるので他に何か良い方法がないでしょうか。電源や PC 等が使えないときの方法。
・自主防災組織が充て職気味で一部の役職に負担がかかっている。
・自治会者と非自治会者の区別をどうしたらよいか。
・一人住まいの高齢者が多く、活動できる人が少ない、すなわち子供も少なくイベントに参加する人が余りいないところで他の町会に吸収合併を望んでいる方が多くいる。
・青対、体振等他団体との平時の連携を深める方法、機会づくり指定避難所（小学校）との連携不足。
・皆さんを防災訓練等へどのようにして参加して頂けるか興味があっても中々参加までしていただけない。家族皆で防災訓練に参加いただけるような訓練を考えること。地域で活動する各団体が同じ HP を作成して地域に情報発信できないか。
・活動している者以外は災害に対する危機感が低い。参加するにしてもイベント参加と同様に参加するだけでよいと考えて、反省や改善の取組がみられない。
・要配慮者の支援事業を実践に活かすことができるのか。
・役所からの紹介、指導がなければ隊長の力量で地区の差ができてしまう。
・大震災が発生した場合、防災リーダー達が避難所に集合していただけるか等が心配に思われる。
・小学生や中学生も自助力を高めるために参加してもらえる防災訓練にすること。年代を超えて繋がる地域の絆を高めること。
・地震と津波・洪水の複合災害時への対応（台風含む）。避難所である小学校の鍵の問題。
・毎年の訓練内容を決めるのに悩む。防災リーダー講習は年に１、２回。消火・放水と毎回同じ内容、他に学ぶ事を考えてほしい。